超、熟年同窓生のバリ島青春小旅行

伊野部敦子、宮地　春美、鍋島　淳子
村山　静子、山下　瑞穂、上田　隆右

はじめに

関西地区の土佐高二十八回生の同窓会は、二十年以上前から、四月上旬の休日、近畿各地で、満開の桜を愛で乍ら昼食・歓談し、付近の名所を散策するのが慣例だった。

ここ数年は、会社の定年、子育ての解放で自由時間が増え、交際の広い、多彩な女性群が幹事を引き受けてくれた事から高知、東京からも多数の参加を得て、春のひと時を京都、神戸の観光旅行も含めて賑やかに交流し、旧交を温めている。

２０１１年４月１４日、神戸北野の大東苑中華館で、藤田女史の幹事で盛大に開催され、インドネシア勤務が長かった山下君も久し振りに出席した。

話題は海外旅行で盛り上がり、この勢いから高知の伊野部（Ｉ）さん、宮地（Ｍ）さん、関西の鍋島（Ｎ）さん、村山（ｍ）さん、男性は山下（Ｙ）さん、上田（Ａ）の六人で、南国の楽園、バリ島（ジャワ島…ジョグ・ジャカルタ）”観光ツアーは、即座に纏まり、元気溌剌で後期高齢者になった同窓生の海外旅行は実現の運びと

なった。

旅行の日程は２０１１年６月５日（日）～６月９日（木）

三泊五日、関西組は二泊四日

宿泊ホテルはグランド・ハイアット・バリ

（超豪華バリ最多七百五十室リゾートホテル）

主な観光場所と出来事は、感想、エピソードを含めて以下に紹介する。

六月四日

高知組、泉北ホテル・ビッグアイに宿泊(泉ヶ丘駅前の寿司屋で前夜祭四人)

＊五月十一日

大阪難波ニューミュンヘンで関西の四人事前打ち合わせ、盛り上がる。

六月五日　関西空港に八時半頃、関西組は夫々空港バス、泉北四人はタクシーで全員集合。いざ出発。ビザ料金のドル交換時、Ｍは肝心のパスポートを忘れた事に気付くハプニング。高知との冷静で見事な連携対応でパスポートを取寄せＹの航空会社・責任者との粘り強い直談判により、翌日のフライトを無事確保し更に融通の困難な格安のエコノミーから１ランク上のビジネスクラスの席まで用

意させて（こんな事は初めて…とネシアの支店長は唸り顔）、Ｍの喜びは元より、全員安堵で胸を撫で下ろした。

ガルーダ航空ＧＡ８３３　十一時出発、機上の人にロマンチックなリゾート気分に心は弾む。デンバザール十七時五十五分到着（約七時間のフライト）。天候は曇り…雲の上にアグン山などバリの美しい霊山が出迎えてくれる。Ｈグランドハイアットでチェックイン、部屋は広く豪華でお殿様気分、大感激。ホテル内でレゴンダンス付ディナーショー、異国情緒豊かなダンスは神秘的で優美、魅惑的だ。同席のうら若き女行員三人が花を添える。

六月六日　六時過ぎ、ホテル前の白砂のビーチでインド洋上から真紅のご来光は素晴らしい。世界最長の砂浜を二軒隣のバリヒルトンまでのんびり至福の散策、スパの早朝の勧誘。最高級のバリヒルトンの美しい絵画的なホテル内を横断し、南国情緒溢れる静寂な緑に覆われた広い街並みを漫ろ歩く…椰子の実が転がり、所々で

黙々と清掃している。
部屋近くのオープンカフェで朝食。バイキングは珍しいジャワ料理が多く新鮮な果実、野菜は豊富、美味しい。ランチ用パンを余分に取込み、昼からの観光時間の節約を計る。
ホテルのプールでリゾート気分を満喫し、生まれて初めて紺碧のインド洋上に繰り出し水泳。（写真右下、撮影は鍋島さん）
十八歳の美男美女に若返り？華やかな色彩水着のお姫様の喚声は喜寿の齢を忘れる。

十一時“ウブド地区”への観光。
ゴア・ガジャ…洞窟寺院と沐浴場で古代王朝の遺跡。
タンバクシリン…高原の避暑地で聖なる泉の湧水池と癒しの沐浴場。丘上の大統領の大別荘が人目を引くが、密集した土産物屋のジグザグ道を潜り抜けるのは苦痛だった。車窓から眺められる熱帯特有の椰子の木々と幾重の棚田の風景はのどかで抒情的。道路端で食べた果物の王様ドリアンは、少し苦かったが産地特有の

風味で美味しかった。
ネガ美術館…古典から現代迄のバリ絵画の名作は圧巻で美しい自然の中の名美術館。街の中心地の小さなブロ・ルキサ?美術館に立寄る。Ｉは熱心に作品について話している。
往来の激しい雑踏の名物市場でＮ、Ｉはサラサを買う。値切るのが常識とか…。待望のケチャックダンスの会場へ。宮地さんと無事合流出来て大感激、歓喜の奇蹟?だ。古代インド叙事詩ラーマヤナをベースにバリの伝統的な呪術舞台劇で、百人前後の半裸の男達が燭台を取り囲み、ケチャケチャの幻想的な掛け声が繰り返し谺する中、王子、姫、悪の大王、猿などに扮した踊り手のストーリー展開が魅力的で美しかった。
神秘的な夢の世界から一転して、ジンバランの心地好い海風がそよぎ、点々とキャンドルライトが灯る開放的なビーチのレストランで、海鮮料理…特大の伊勢海老と巨大な蟹が夫々二匹のスペシャルメニューを加え、潮騒の音を聞きながら、全員でたらふく貪り食う。
旅の最大のイベント、バリの夕暮れの豪華なディナーを心いく迄楽しんだ。

六月七日　今朝も六時に海岸線を散策、快晴の為か朝日は急に輝き、辺り一

面が明るくなる。昨朝と反対の突端の公園へ。延々と続く真っ白い砂浜と椰子に囲まれた遊歩道は快い。

朝食のデザートに女王のマンゴーを堪能する。豪華で箱庭的な美しいプール、果てしなく広大で透明なインド洋で水泳に、水遊びに、バリ特有の超贅沢な時間を再満喫する。Mが加わりオールメンバー、華やかさも倍加し、本来の旅の楽しさ、喜びを実感した。

昼前にショッピング…老舗のジャワ珈琲の店で、女性達は夫々の好みの品定めに大童。コーヒーを飲まないNは紅茶、クッキーを中箱二つ買い込み、交友の広さに驚く。免税店プラザバリではサラサのシャツを思い思いの人へのお土産に探している。

クタの繁華街、丁度帯屋町？…のスーパーで特産のチョコレート、干しマンゴーを買う。空港より安いと言う。バリ通のYはブランド店へ入り中々出てこない。

島の東部、夕日で有名なタナロット寺院に向けて十四時出発。狭い道路にはバイクが溢れ、車の前横を平気で駆け回る。中には夫婦子供二人乗りで暴走するのは怖くて信じられない。

途中、タマンアユン寺院へ…バリ屈指の規模と美しさを誇る歴史的な国寺で、堀に囲まれた広大な庭園の緑とマッチして、神殿や塔群の整然と建ち並ぶ光景は

優美である。
タナロット寺院での夕日を観賞するため十七時過ぎに見晴らしの良いテラスに陣取る。待つ間、小島に建つ寺院、美しい絶壁の海岸線を眼前に、椰子の実汁は美味しかった。
段々と夕暮れが迫り、輝く赤い太陽は水平線の雲に遮られ美しく姿を消していく。クタの有名なダイナスティホテル（五つ星）での豪華な中華料理、リッチな雰囲気、美味で大満足。バリ最後の晩餐会は旅の思い出、Ｍの奮闘記など話は尽きず楽しかった。
今夜帰る関西のＮ、ｍお二人を国際空港に見送る。過度の緊張か、バリへの心残り？なのか。雑踏の中、何度となく振り返り、不安げに深夜のロビーに消えて行った。
夜型のＹは外人バーに案内すると言う。夜も随分更けており明朝が早いので断った。

六月八日　早朝四時、Ａは真っ暗なホテルを一人出て空港へ。ライオンＪＴ５６１でジョグジャカルタへ（１．５時間）。

直ぐに仏教寺院ボロブドゥールへ。

ムラビ山の大噴火跡が未だ生々しい。密林の中、壮麗で神秘的な世界最大級の発掘された巨大遺跡は重量感に溢れ、精緻で多様なレリーフも圧巻で、想像を絶する偉容にしばし圧倒され呆然と佇む。

ムンドウッ寺院、銀細工の店、国王の公邸、サラサ工房に寄るが、余り関心はない。ジャワ料理の後、世界で最も素晴らしいヒンズウ教のブランバナン寺院に足を踏み入れる。（写真・上）

シバァ堂を中心に五堂が整然と配置され、基盤に無数の小祠堂が取り巻いている。ピラミッド型巨大建造物のボロブドゥールとは対称的で、美しく調和のとれた雄大で荘厳な世界遺産である。

原色カラフルな民族衣装の地元女子大生四人に出会い、記念写真を撮る。無垢の純真可憐さが魅力的だ。

一人ゆっくり境内を一周する。アングルは絶妙に変化し夫々に趣がある。ミニ汽車で緑一帯の広い史跡公園をセウ寺院迄遊覧する。

ＧＡ２５２　十六時十五分でテンパザールへ十八時

十六分予定通り到着。
機窓からジャワの三千㍍級の富士に似た名峰が、更に山腹に湖を配したアグン山が雲上に美しい姿を覗かせていた。

Ｍは午前中、念願のスパでエステを大満喫し、昼からショッピングを楽しんだと言う。Ｉは旅の疲労か、おしゃべり疲れ？か…少し体調を崩し空港近くのホテルで休養する。
例の繁華街のスーパーでＹ、Ｍと落ち合い日本料理の店に入るが、全然食欲がない。疲労と食あたりか。二十二時頃Ｉをピックアップして空港へ。
Ｙのゴールドカードのｖｉｐ室は快適、大型ソファーでゆったり休養できて有難かった。Ｙ，Ｍは生ビール等手にするが、酒好きのＡは、全く飲む気力なく見てるばかり、悔しい！。Ｉも元気を回復し安心した。
ガルーダ航空ＧＡ８３３は深夜一時に出発。格安のエコノミー席は最後尾、幸運に恵まれ空き、空き。真ん中の席を全部独占し、ゆっくり足を伸ばし、横になって寝て帰った。

六月九日　　八時三十分関西空港に予定通り到着。

飛行機で高知へ帰るI、Mを伊丹行の空港バスに見送った後、Y、Aは泉北への空港バスで帰路に就き、楽しかった旅は無事終わった。

あとがき

今回のバリ旅行は、のどかな常夏の異国情緒豊かな素朴な大自然、各地のエキゾチックで荘厳なヒンズゥ寺院、名刹を訪ね、またダイナミックな中にも優雅なバリ舞踊、多彩で牧歌的な絵画など伝統的な芸術、宗教、民族文化の一端にも接する事ができた。生まれて初めて、紺碧のインド洋上からの日の出（朝日）を眺め、果てしない白砂の広大なプライベートビーチで海水浴に興じ、華麗な超一流高級ホテルの中、箱庭的なプール群で、童心に帰り心行くまで水遊びを堪能したのも、夢のような懐かしい思い出である。

マンゴー、椰子など新鮮なトロピカルな果実や特大の伊勢海老、蟹のシーフードなど当地ならではの美味なインドネシア料理と固有の食材をたらふく味わい、赤道直下の太陽のもと最高の優雅でリッチなリゾート気分を満喫し、素晴らしく、楽しい日々の連続だった。また、高校時代に殆どお話した事の無かった「お嬢様達」と、この旅行をとおして”親しく青春？を共有”出来たのも、無上の幸せだったと思う。

最後に、旅行の発案、計画から実施まで山下君に世話になった。緻密で繊細、バリを熟知した格安プラン、配慮に富んだ日程が、充実した旅行となり皆が満足したと思う。また、彼の行動力、バイタリティーには感服すると共に、外人並みの語学力、交渉力、特に女（男）性術…何時でも何処でも、誰とでも…にも改めて感心させられた。

２０１１・６・１５　上田記（一部加筆）

（追記）同窓生で、バリ島観光に興味のある方は、私達が利用した五つ星の”グランドハイヤットホテル”を何時でもお世話して差し上げます。
タックス込みで三百八十ドルの部屋を百十ドル、勿論一部屋の値段です。
二人か三人で割れば、更に超格安！！

喜寿の私達インド洋で泳いだのです

鍋島　淳子

楽しい旅の経過は上田さんの「超熟年同窓生のバリ島小旅行」に詳しく美しく書いて下さいました。何時も上田さんの写真が楽しみなのですが　今回はワードに添付と言う事で、私のデジカメ写真を載せることになりました。

私は皆の海で泳いでいる姿に引かれて寺院や景色の写真が無くて残念です。ところが、「朝雨は　女の腕まくり」　か「怪我の巧妙」か

カメラのチップをパソコンに差してみますと、なんと　超熟年と思えない　女らしい肉体美ではありませんか。（おこがましいけど私も入れて）

小さい写真でこそ良いかとも思って、ここにお披露目いたします。

出発前から海で泳ぎたいと思っていました。

浸かるだけでも危ないかも知れないので、

大きな浮き輪をカートに詰め込みました。

泳いでいる写真を撮りたかったので、

帽子を重ねて被り

間へカメラを挟んで

泳ぎました。

大声で喋る位面白いことは無いと

思いました。

欧州主要５ケ国…講演・交流・観光…漫遊紀行

上田　隆右

プロローグ　超電導の国家プロジェクトは、いよいよ最終年度を迎え、超電導発電機の技術開発は着実に研究成果を挙げ、世界でも初めての実際の電力系統に連携した実証試験研究にも成功し、十二年間に亘る長い研究開発を終えようとしている。

超伝導研究の国際的な会議である欧州超電導応用技術会議（ＥＵＣＡＳ、９９）が今秋（１９９９年）スペインで開催される。世界への情報発信と技術交流の絶好の機会と考え、講演の依頼に応えて、これら世界最高級の開発結果を論文にまとめ、発表する事とした。

研究発足の当初、先進的に研究を行い世界のトップレベルのドイツＳｉｅｍｅｍｓ／ＫＷＵ社、フランスの電力公社（ＥＤＦ）と定期的に情報交換し、先方の進んだ技術をフランクに教わり、切磋琢磨して研究を推進した事が、今回の成功の原動力に繋がった。

今回の欧州での講演と情報交換を通して、報告と感謝の意を表すと共に、超伝導の世界的なリーダーで今は引退した旧知のＤｒランブリヒト等にもお会いしたい気持ちが蘇った。

盛沢山の訪欧計画（内容、スケジュール等）に頭を悩ましている時、超電導発電機の開発に直接関与した東芝のＴさんが同行してくれる事になり、願ってもない。技術に詳しく、語学は堪能、幅広い人脈、誠実な人柄で、正に鬼に金棒、大いに助けられた。

九月十二日　　ＪＬロンドン行（十一時五十分）に、はやる気持と重い荷物をもって乗り込む。良く登った北アルプスの真上を飛び、美しい山並みが手に届くようだ。富士山が見送ってくれる。シベリヤ上空から広大なツンドラ地帯にアムール河がスネークして流れる。所々に三日月状の湖沼が印象的。北欧はスカンジナビア半島を横切ると点在する島々が綺麗に見える。美しいロンドンの街並みと緑の公園を眼下にしながらヒースロウ空港に到着する。

構内は広くトランジットは大変、時間を気にして待合室で待つが落ち着かない。出発ロビーで同じ会議に行く電中研のＫ君らに、搭乗間近にＴとも会えてホットする。一路バルセロナへ約一時間、空港に着く頃には日もたっぷり暮れていた。

会場のシッチェスへのハイウェイからの灯は、遠く離れた“異郷の地”で心細さと共に、これからの講演や交流への闘志が沸いてくる。

九月十三日　シッチェスのリゾートホテル（ＡＮＴＥＭＡＲＥ）はメルヘン的で白い壁に包まれた迷路の部屋、美しい木や花に覆われている。朝のモーニングはプールの横のテラスで新鮮な果実と豊富な野菜、ハム卵など美味しく違和感はない。時差を忘れ一時間ゆっくり休み、Ｔに起こされるハプニング。

会場の立派なＨｏｔｅｌ　ａｃｃｍｏｄａｔｉｏｎへ下見と登録に行く。参加者も集まっており少しは緊張する。受付のスペイン嬢は明るく、笑顔が魅力的。

地中海に面した美しい白亜の街並みを海岸沿いに散歩しながら帰る。途中に原色の色鮮やかな子供服の店があり、Ｔは孫の土産を買うと言う。私も丁度同じ約一歳の女の孫、連しょんでなく、連買する。食料品の店で買い求めた地元の食材で、ワインを飲みながら、Ａの部屋で前途を祝う。

床に就いても中々寝付かれず本番の講演（苦手な英語）に備えて何回となく練習する。木立を挟んだ隣のマンションの一室から若い男女のはしゃぐ嬌声が気にかかる。ここは高級なリゾート、夏のバケーションの地、海水浴の人も多く、街で派手な水着姿の男女も見掛ける。

九月十四日　土砂降りの大雨、タクシーを呼ぶが来ない。同宿の発表者も大慌て、やっとの思いで掴まえる。会場は外人ばかり二百人の超満員、緊張の連続、無事発表を終え拍手を耳にするとホットし、今迄の苦労が吹っ飛ぶ。増刷の論文コピー五十部も直ぐ無くなる。ＴにＯＨをお願いし、常連の独・カールスルーエ（ＦＺＫ）コマレック博士の質問にも対応して貰い大いに助かる。

昼休み、調査団長の小長村京大教授から良かった、鼻が高かった”と喜んで頂き有難い。直ぐ下のヨットハーバーのレストランでＹ新潟大Ｉ早大の先生達と美しい海を眺めての食事。

後は大役の仕事から解放されリゾート気分で地中海の宝石、シッチェスの街を、存分に探索し楽しむ。旧く海外交易で栄えた豪商の館は、豪華で美しく、ミニ美術館として公開されている。手の込んだ外飾（金具）は白壁に映え、美術品、絵画、陶磁器、家具等調度品は見事で古の栄華が偲ばれる。格式ある部屋から広大な海を眺めると中世の大富豪の気分にタイムスリップし豊かな気持になる。二、三の館を梯子する。

九月十五日　朝からバルセロナへ行く。郊外電車は速く街や工場、野原、海

岸を走り続ける。
先ずはガウディの聖家族教会。中世建築の粋を結集した多くの奇抜な塔、複雑に絡まる宗教建造物は異様で目を見張る。協会の出入口や外壁至る所にある医師の彫刻は、厳めしく美しい芸術作品だ。未だに修復工事は継続しており、完成への弛まぬ努力に驚かされる。
市の中心にあるガウディの特徴ある建物を眺めカタルーニヤ広場へ。市民の憩いの小公園、ハトも多く木々もあり和む。ランプラス通りは真ん中に花屋、小鳥屋、古本屋などが並び混雑している。カセドラルは大きくて荘厳。街のシンボルでもある。屋上まで上り美しい市街を眺める。街角の店先で軽食、風情がある。Tは掏りに狙われたと言う。注意！
歩いてコロンの塔へ、新大陸を発見したコロンブスの寄港を記念した建造物で、我々の研究開発の丁度今（苦難の末、新技術の成功）を象徴しているようで面白い。
市外に出てガウディの地下教会へ行く。可愛い女子学生に尋ねてやっと辿り着くが廃墟で侘しい。丘の上に建つ倒れかかった城跡が印象深い。スペイン広場に戻りスペイン村へ入る。各地の建物、文化、伝統品が集められた小ミュウジアム。直ぐ横の風格のあるカタルーニヤ美術館を見る。この地方の旧い教会の中央、壁

面の漆喰に描かれたキリスト、マリヤ像を集め、保存・復元した歴史的、宗教的な色彩が濃い。古今、この地の人々の信仰・敬虔の権化を感じて、単なる絵画と異なりこれら重厚な壁画は見応えある。

シッチェスに帰り、人形の館博物館を見る。世界の大小の人形が、所狭しと家全体の部屋に飾られ壮観、日本の京人形もあり郷愁を誘う。暗闇を出ると懐かしい人の声、小林、大橋（東大）Y先生など日頃お世話になっている方々にお会いする。皆で海辺のレストランに入り賑やかにパエリアを食べる。偶然とは不思議な物、食事をご一緒したいと思っていただけに…地中海の新鮮で豊富な魚介類を炒めた異郷の料理は最高に旨い。

成功を喜び合って、楽しく美酒に酔う。

九月十六日　朝早く、長い海岸をのんびり独りで散歩、前方は地中海が果てしなく続く。更に足を進めると、木々に囲まれた高級な別荘と綺麗なホテルが一層景観に彩りを添え絵画的で美しい。

昼の飛行機（十二時）で首都マドリッドへ。

先ず世界的に有名なプラト美術館へ行く。館内は巨大で、多くの絵画や彫刻が展示され、代表的なゴヤ、エル・グレコなどの名画を重点に駆け足で鑑賞する。

立派で素晴らしく迫力満点だ。豪華な王宮は余りの大きさに度肝を抜かれる。建物の広い内部は美しい絨毯を敷き詰め、シャンデリヤは立派で大きい。贅を尽くした最高の美術、工芸品、優雅な家具など調度品が並べられ、中世期、栄華を極めた王の権力、財力と富、ロマンを象徴しているかのようだ。見事で素晴らしい。

夕食を兼ねて町の中心へ、Ｔは日本で買うより安いと奥様にハンドバッグを買う。羨ましい。帰って娘に話すと自分も欲しかったと言う。

綺麗なレストランで食事し、情熱的なフラメンコを…と探し歩くが未だ早いためか見当たらない。明朝早いので諦めて帰る。Ｈｏｔｅｌ Ｓｏｆｉｔｌ…Ｍａｄｏｒｉｄ Ｐｌａｚａ Ｅｓｐａｎａ…は伝統ある立派で豪華、少し王様の気分になる。

九月十七日

空港で関電のＮさんに会う。奥さんとのスペイン旅行とか。異郷の地、偶然にお互い驚く。講演の記念に微笑の少女で名高いリアドロの磁器の置物をＴＡ共々買い求め、大きな荷物を持つ羽目になる。

フランスのＣｈａｒｌｅｓ ｄｅ空港には、ＥＤＦの車が待っている。ＣＩＭＡ研究所はパリを挟んで反対側、市内を半周回りすると、のどかな田園風景が広がりいい環境にある。テロンさんの出迎え、久し振りの再会、懐かしい。

情報交換をして設備の見学をする。超電導ケーブルの試験をすると言う。国営だけあって、電中研より大きい。市内のホテルｈｏｌｉｄａｙ ｉｎｎに送ってもらう。

観光船でのセーヌ川のクルージングは夜風が快く、ライトアップしたエッフェル塔、ノートルダム寺院、自由の女神像は夜空に浮かび美しい。川沿いの上品なレストランで食べた海鮮料理は、殊の外美味しかった。

九月十八日　「パリの休日」、ジベルニーのモネのアトリエと睡蓮の池を観光する。セーヌ川を下る郊外の景色は牧歌的で絵のように美しい。晩年を過ごした建物（アトリエ）と庭園は、自然の陽光を受け、赤、黄、白、桃、色とりどりの花々に囲まれ光り輝いている。

特に一面に咲く真紅のダリヤは満開で綺麗だ。枝垂れ柳に覆われた池は澄み、睡蓮が浮かんでいる。静かに流れる水面に木々の緑を映し、日本的な橋も情緒がある。自然の楽園、夢の世界にいる気持ち、旅の疲れも吹き飛び、心身共にリフレシュする。

印象派のオルセ美術館が休みとあって市庁舎、ノートルダム寺院に行く。礼拝堂は大きく。荘厳なステンドグラスに驚かされる。夕方の飛行機でチュウリッヒ

へ、川沿いに町が点在し、大きな町を中心に道路が放射状に延びている。広い広い緑の平地と広大な鬱蒼とした黒い森林のある風景はドイツ南西部の特徴か？

中央駅から湖畔まで夜の目抜き通りを散歩する。対岸の灯が静寂の湖面に瞬き、揺らぐ眺めはロマンチックだ。駅に近いＭＡＲＺＯＴＴ ＺＵＲＩＣＨは近代的な高層ホテル。空港で買った山行の為のチーズを置き忘れ残念。

九月十九日

６時前、未だ暗闇の駅のホームでパンを食べ腹ごしらえする。ルツエルンに着く頃、薄く赤らんで来る。立派な駅には人影がない。乗継ぎの時間があり旧市内を一人で散歩する。有名な屋根のある橋を渡るが誰もいない。川の中の塔と群れ遊ぶ水鳥、川岸のメルヘンの家並み、川面に映る灯がのどかで絵画のように美しい。大きな教会も覗くが未だ人は疎ら。

エンゲルベルグ行きの真紅の半登山電車は、緑の豊かなハイジーの世界、段々と高度を上げ山々も険しさを増すとリゾートホテルの立ち並ぶ終点に着く。正面には雪一色のアルプスの高い峰々が姿を見せ感激する。

チトリスの頂上へと思ったが強風で中間まで二人乗りのゴンドラで行く。小さな湖を回りスキーリフトで峠まで、風が吹き出し肌寒い。パスの山小屋のテラスで食べた持参の果物？は美味しかった。小高い丘に登ると切り立った憧れのスイ

スアルプスの山脈が、眼下の湖とマッチして遠望でき素晴らしい。風は吹き荒れ、間一髪の最終便でやっと下る。ゴンドラからの緑の牧草地は鮮やかで、点在する家々と調和し、雪景色の高い山々とのコントラストは絵画的で、スイスの印象を一層深め、大自然を満喫した。ルッエルン構内でパンと飲み物を列車に持ち込み、美しい山、湖、川を眺めながら味わう。ホテルに直行し預けた荷物を手に空港へ。離陸すると後方に白銀のアルプスの山々が雲の上に綺麗に眺められ、ドナウ川の上をドレスデンへ。少しハードだったが、牧歌的で心癒される、満足した楽しい休日だった。

九月二十日　ＭＲＣＵＲＥ ＮＥＷＡ ＤＲＥＳＤＥＮホテルに８時、Ｄｒリーゼが迎えに来てくれる。重厚で格式のあるドレスデン工科大学で講演と討議を行う。先生、学生は新技術の成果に関心が高く、厳しい質問も多く、時間を忘れる有意義な一時だった。

館内にはｓｉｅｍｅｎｓの旧い大きなモータなどが展示され伝統の重さを感ずる。二時頃から旧市内を案内してもらう。

バロック様式のヅヴィンガー宮殿など壮大で優美な建物が、大きな中庭を取り囲んで建っている。美しいゴルベ川近くの古風なレストランで遅い昼食をご馳走

になる。宮殿の外壁一杯に描かれたマイセンの磁器で作られた「君主の行列」は見応えがある。歴史的な建造物である大教会は大々的に修理していた。マイセンの磁器をヒルトンHのショウウィンドで見るが手が出ない。

夜遅い便（二十時二十五分）でデュッセルドルフへ、ホテル日航は日本人が多く気が休まる。

九月二十一日　朝八時、シーメンスの車が迎えに来る。工場に入ると旧知のDrL・Iとの嬉しい再会、今迄の懐かしい交流の数々が走馬灯のように目に浮かぶ。

二十人程を前に研究成果を説明し、最後に感謝を述べる。現役は研究をしていないためか関心は薄い。OBはかつて世界に先駆けて研究を進めていた自負心から真剣に聞き、質問も多い。最後に「素晴らしい成果だ。是非実用化を…」熱いエールと成功へのスタンディングオベーションに大感激！。

十年前、お互いに超電導発電機の研究を成功させ実現させようと熱っぽく話し合った事が思い出され、感慨深いものがある。ゲストハウスでの歓迎のランチも、心なしか元気が無く、寂しい。「実用化には資金、経済性、情熱（やる気）」と長老は言う。正に金言だ。

今や世界のトップランナーとしての責任の重大さを実感し、ＤｒＬの車で工場を後にした。

郊外の閑静な高級住宅街の私宅に招かれ、奥さん共大歓迎を受ける。趣味の良い広い家の中、花々の咲く美しい庭を案内され、地下のホビー室で思い出のスライドを見る。日本旅行やスイスのアルバムで話は尽きない。奥さんの和服姿と扇子のポーズは印象的。お手製の心のこもった料理とお菓子は美味しく心が和む。

ビールとワインで時のたつのを忘れ楽しい一時を過ごす。初めての素晴らしい、過分の接待に大感動、忘れえぬ思い出である。ＤｒＬはリタイヤー後は、悠々自適で家の修復、スイスの別荘で山歩きやスキーなど人生を優雅にエンジョイしている。私も見習わなくては…と痛感する。八時頃駅で別れる。

九月二十二日　早い飛行機（七時二十五分）でロンドンへ飛ぶ。

Ｔは仕事で別行動。Ｔの勧めたＹＯＲＫへ二時間弱のロマンスカーの旅。

窓の景色は牧草の生い茂るのどかな田園風景、駅付近や点在する人家にはシンボルの教会があるのが印象的。イギリスの美しい自然を堪能する。

ＹＯＲＫは城壁に囲まれた旧いイギリスの代表的な街と言う。ヨークミニスターは壮大で綺麗、街のシンボルでもある。中世の教会建築で有名。ステンドグラ

スは素晴らしい。旧い華麗な大学や煉瓦造りの街並み、人の混み合うマーケットなど時間の許す限り歩き回り、風土に接する。

十六時過ぎの列車に乗ると山高帽を被ったユダヤ系？の陽気な大家族と一緒になる。沢山の子供がはしゃぎまわり賑やかだ。旅の思い出に写真に収める。キングスクロス駅に近づくにつれ天気は悪くなり雷が鳴る。到着した時は大粒の雨が土砂降り。天井から洪水のよう激しくプラットホームに流れ落ちる様は異様で、恐怖さえ感じる。Ｔも心配そうに待っている。本当に有難い。

今回の旅行で、最初で、最後の、小さなパニックだった。

空港の売店でカシミヤのマフラーをお土産に買う。Ｔはパリで紅茶、ロンドンではパンと、世界の美食を求め、感心する。ＪＬ（十八時五十五分）に乗る。隣は石油会社の定年の人、イギリスを奥さんと旅行しＹＯＲＫも楽しんだと言う。一杯飲みながらの四方山話に今迄の緊張も解け、重荷だった仕事、楽しい観光旅行の疲れが一遍に出て良く眠る。

おわりに　今回の講演・交流・観光旅行は、欧州の各都市を歩き回り、充実した素晴らしい旅だった。

スペインでの超伝導の国際会議で我々の研究成果を講演し、全世界に広く情報

発信し、声高々にアピールする事が出来たのは最高の喜びだった。発足以来交流のあるsiemens EDFの二社にも最後の情報交換を行い、感謝の意を含めて一区切りをつけ得たと思う。また旧知のDR LAMBLIERT、LIESEにお会いし、成功を喜び合い、研究談義に花を添えたのも嬉しかった。

特にDR Lの私邸に招かれ、心温まるフレンドリーな過分の歓待と熱いエールには、一生忘れ得ぬ貴重な思い出だ。

この講演と交流の慌ただしい日程の中で、休日を最大限に利用して、スペインのガウディの教会と美術館巡り、ジベルニーのモネのアトリエと睡蓮の池、スイス中央部の絵画的なアルプスの小トレッキング、英国の伝統的な街並みと大聖堂のヨークと広大で牧歌的な田園風景など欧州の自然・風土・文化・芸術…の一端に接し、非常に有意義な毎日の連続だった。

（追記）二週間に亘る海外旅行から帰り、国際会議の出張報告、超伝導国際シンポジュームの開催と発表、慰安会など慌ただしい日々が目白押しに続いた。未だ旅の疲れが十分癒されない中、十月上旬の連休に荒川・赤石岳に弟達と三泊四日の強行軍の登山をした。

特に高低差のある三千（メートル）級の尾根の縦走コース十二時間は厳しくヘトヘト。富

士山、北岳が身近かで応援してくれた南アルプスの深山・幽玄の魅力を十二分に堪能した山旅だった。

（２００１・１２・２　記…一部加筆）

最後に

「くろしお」発刊以来五回に亘って「山・超伝導・家」の三題についてその時々の出来事、思いなど雑感を延べさせて頂いた。この締め括りとして最近の状況は？

山

「年間累積の山頂標高合計、三万㍍」を目標に、ここ十数年、北アルプスを中心に挑戦し、２００３、４年の四万㍍（鹿島槍など後立山、烏帽子鷲羽裏銀座の縦走）をピークに、前穂奥穂縦走（００）、剣立山登頂（０２）大日３岳（０６）北の俣黒部五郎縦走（１０）など年平均二万五千㍍の山々を踏破し、累積の標高では三十三万㍍に達する。≪富士山の九十回登山に相当≫

年間の累積山頂標高合計の年次別推移	
1998(年)	23(千㍍)
99	23
2000	22
01	22
02	28
03	42
04	40
05	24
06	25
07	23
08	8
09	18
10	28
11	4
12	0

近年、義母の介護や弟達の仕事の多忙

などから時間的な余裕がなく、１１年の燕岳を最後に山登りから遠ざかる羽目になっている。未だ気力だけは旺盛だが、実際は急な登りが厳しくなり、体力の限界？なのか…悔しいが年（傘寿の齢）には勝てないと思う、今日この頃である。

超伝導　本命であった超電導発電機の研究開発は、幾多の苦難を乗り越え、世界でも最初に六十万ｋｗ級実用機の技術を確立し、２００４年、成功裡に終了した。しかし、近年の世界的な諸情勢（大不況等）から、この実用化は、残念ながら未だ陽の目を見ていない。

同時に進めた先進的な超伝導線材や冷却装置の開発成果は、スイスの欧州原子核研究機構（ＣＥＲＮ）に設置された巨大な世界最大の加速器（ＬＨＣ）の心臓部に採用され、近年話題の「神の粒子…ヒッグス粒子」発見に、陰ながら大きな役割を果たしており、日本（我々の企業との共同研究）の長年に亘り培ってきた技術が着実に花を開き、嬉しい限りだ。また最先端技術である夢の高温超電導材料の研究についても、電力ケーブル等への適用を目指して活発に実証研究が進められており、何時の日か実現されるのを期待したい。

家　今迄交友の少なかった土佐高校同級生と付き合ったり、ご一緒する事が多

い。　佐竹さんのエイジシュター（年齢以下のスコア）達成の素晴らしい快挙（２０１１年夏）を機会に、年数回ゴルフのご指導？を頂いている。
再度の快挙！！を期待しプレーしているが、何時も足を引っ張り申し訳なく思っている。彼のホームコースは三重県、コースの立地環境は素晴らしく、又ご一緒する従兄弟さんも同年輩で略同じレベル、和気あいあいのお付き合いは最高だ。（少々遠いのが玉に傷…奈良、京都２府県を通過し片道３時間強）

長年海外勤務をし最近リタイアした山下君とは、家が近く介護にも共通点があり、時々会って息抜きをしている。一昨年春、彼の案内でバリ島へ伊野部、鍋島さん達と観光旅行したのは、学生時代の気分に帰り、最高に楽しかった。

生まれて最初の貴重な経験もさせてもらった。一昨年六月バイク事故（軽自動車に当てられ転倒）で救急車のお世話になった。先方の注意不十分、幸運にも殆ど傷害は無かったが、以後安全運転に注意している。また、昨年は右肩の大きな腫瘍で、（数年来手術を回避していたが…）酷く脅かされ、全身麻酔で切除して、数日間近畿大学病院に入院した。

ゴルフと言えば昨年末名門の聖丘(旧ＰＬ)カントリークラブでのゴルフ納め、それも最後の１８番ホールでバンカー越えをチップインし稀有な大フロック。この幸運で年平均スコアも不名誉な“百獣（十）の王”に成らずに治まった。

今年に入り正月に、麻雀では、今迄一回も出来なかった夢の“国士無双”の役満をあがった。その後、役者は変わるが、“国士無双”“人和”と、この半年で計３回も役満が立て続けに成立した。　これら確率的には信じられ無い数々の事象に、超偶然性、神懸かり、神遠・神秘の世界を垣間見る思いがしている。

人生良い事もあれば悪い事もある。一喜一憂せずに自然の摂理に従い「心の赴く儘に矩を越えず」の心境で、のんびりと生活をエンジョイしたいものである。

（南紀白浜へ山下君との愉快な男二人旅から帰って　２０１３・６・２６記）

パリ、ニースの旅

鍋島　淳子

十二時のニコライ堂の鐘の音を　聞きて飛び立つ胸高鳴りつ

伊野部敦子さんと宮地春美さんのお誘いで２０１２年１０月１５日羽田空港を飛び立ちました。ドゴール空港には伊野部さんのお知り合いの方が二人、迎えてくださりオペラ座の西隣の豪華なホテルに入りました。ゆったりした機内のお蔭で、疲れも無く荷物を置くとすぐ外出しました。

パリだ！パリだ！と大はしゃぎしてマドレーヌ通りのカフェカプチーネのテラスでお昼を食べました。パリに長い福本さんに「生牡蠣ないかしら？」と聞くと「ある、ある」と言う事で到着早々

待望の生牡蠣を半ダース頂きました。氷に乗せられて来た大きな牡蠣が喉をツルン！美味しいです。グラスワインが欲しいところでしたが、食事の後に高級ブティックをまわることになっていたので、控えました。
伊野部さんのお知り合いの福本さんは洋画家だったご主人を最近亡くされてパリのアトリエや住居の整理をされているところでした。もう一人の森木さんはご主人がフランス人でパリで暮らしておいでるようです。

携帯に目覚ましをセットし早々に休みました。ベルに起こされて重たい顔を上げて見るも真っ暗です。六階の窓から通りを見ると、沢山の人通り　え！これ朝の六時？何時だろ。私がフロントへ行くことになりました。会話が出来ないから、「地球の歩き方」を持って行き、ベルサイユのページを見せて「トモロウ」「モーニングコールプリーズ」と言いました。
朝六時にコールがあり、やれやれでした。フロントへすんなり行けたわけではありま

せんでした。部屋のドアカードを何階で降りるかその番号に差し込まないとエレベーターが止まりません。フロントが１階と思っていたら０階でしたので、一回目は失敗しました。どうしようと困っていたら男性が乗って来てフロントで降りたので続いて降りました。

伊野部さんの会話は凄いと思います。飛行機を降りて、入国管理を通り、モノレールで移動して、荷物を受け取りに行き、ホテルのチェックインまで、全て伊野部さんの腕一つに頼りました。

彼女曰く、土佐高の映研クラブで、川村愿さんや岡村毅郎さんと放課後洋画を見に行って、熱心に英語の勉強をしたそうです。あんまり映画へ行くので毅郎さんのお母さんが、松浦先生に相談したら、「暗い処が良うて行きやせんから、ええですろう」とおっしゃったとか。頭の良い方ばっかりだから信用厚いのです。

《１７日》　なんと贅沢な朝食でしょう。一番先に目に入ったのは生ハムです。その大きい事。ダルマイヤーだったら一枚四百円位しそうです。「地球の歩き方」でホテルスクリーブを見てみると一泊４７０ユーロでした。

いざ　ホテルを出てみると外は真っ暗です。びしゃ　びしゃ雨が降って寒いし、

昨日のパリとは大違いでした。すぐ近くにある筈のマイバスの発着所へ曲がる角の、カフェの赤い庇が目印なのに、歩けど歩けど見えないのです。

伊野部さんが、行き交う人に必死で尋ねるのに、パリジャンには用の無い処らしく誰も知らないのです。そこにタクシーが通りかかって、ようやくマイバスという言葉が通じました。けれど「そこだよ」とゼスチャーをして乗せてくれようとしないのを「**乗せてよ！**」と無理矢理に乗ったら、１００㍍位走った所にありました。こんなに可笑しい事が他にあるのかと、三人で大笑いしました。家に居ては、ここまで必死になる事がないので面白くてたまりません。

ベルサイユに来るのは二度目ですがゴールドの柵や門番には覚えがありません。お土産売りの黒人に追っかけられた事を思い出しました。

初めて「ナポレオンの戴冠」（写真下）を見た時、桁外れの大きさにびっくりしました。ドラマチックな美しさ、そ

して登場人物の多さに驚くばかり、でも、皇帝になったのはナポレオンなのに、何故王妃の頭に？と不思議でしたが、ジョセフイーヌへの深い愛の表現が同時戴冠となり、これほどまでに大きな絵画になったのだと、理解しました。

（写真はベルサイユの鍋島）

華麗に装飾された部屋が続きます。ゴブラン織り、ビロード、ベッチン、椅子に壁にカーテンに、ベッド、垂れ幕、王のマントに縁取りのゴールドや毛皮にマッチする織物の素晴らしさに見とれていて、二人にはぐれてしまいました。

一人になると集合時間が気になって、バスへ戻りました。観光バスはざっと数えて二十六台、次々出発、次々到着、一人１５０ユーロです。

《私の学習》　シャルル九世が亡くなり続いてカトリーヌ・ド・メディシスも亡くなりました。シャルル九世には世継ぎがなかったのでバロワ朝は終わりま

した。ナパール国の王子アンリブルボンがアンリ四世になって、ナントの勅令を出して宗教の反目を治めるが、暗殺されて、息子のルイブルボンは八歳でルイ十三世となり、次のルイ十四世は四歳の国王。宰相リシュリュウにつづき宰相マザランの外交力で平和裡に国力をつけた。ルイ十五世の時アメリカ独立戦争に肩入れして、イギリスと戦って敗北しフランス経済は困窮に向いて行く。

次のルイ十六世は、派手派手の太陽王のおじいさんと、十五世のやり手の父の付けを、マリーアントワネットと共に被ったのです。六人の王の中で一番優しく真面目、王妃アントワネットの他に愛した女性は、一人も居なかったのです。

《18日》　二階建てオープントレーン（バス）で市内観光をします。マドレーヌ寺院の前でバスに乗れる筈ですが、私達は寺院の東側から北へ向いて歩き始めたので、バス停が見当たりません。走っているバスに「乗せて！」と手を振ると窓から手を振ってくれるだけです。市バスの停留所にいた女性に三人三様の言葉で、チケット売り場を教えてもらいました。

《私の学習》　バロワ朝はフランソワ二世に次いでシャルル九世となる。十歳の王の後見を皇太后カトリーヌ・ド・メディシス。カトリックとプロテスタント

の絶えない争いを治める為に、プロテスタントの統領アンリ・ナパール・ブルボンと美しい愛娘マルグリット・バルボワを政略結婚させた。が結婚の祝いに集まったプロテスタントの虐殺となり、何故かカトリーヌはアンリを何度も毒殺しようとする。

悲劇の二人は正式に離婚。しかし不思議なのは、アンリ・ナバールです。再婚の女性にメディシス家のマリー・ド・メディシスを迎えて目出度く王子を設け、ルイ十三世となりました、

数奇な運命を乗り越え乗り越え、フランスの王になったアンリ四世の生まれ故郷のナパール国は何処だろうと思っていましたら、テレビ「世界の温泉」で見つけました。（写真はパリにあるアンリ四世像）

スペインとの国境ピレネーの山深い温泉郷に、ナパール城があります。王子アンリの部屋、アンリの彫像。街の名はポーです。近隣にカトリックの聖地ルールドがあって巡礼

で賑わっていました。
カトリックの聖地の近隣に生まれ育って、アンリナパールは何故プロテスタントの統領でしょう。

《１８日》　セーヌクルーズに出かけました。エッフェル塔の側から観光船に乗り込みましたが、十年前に乗った船（写真左下）とは大違い。シャンソンを聞きながらフランス料理を頂きました。両岸の建物と潜って行く橋は綺麗にライトアップされていますがあまり見ている人は居ません。十年前はお食事が無かったから、部屋を出て一生懸命見ました。探照灯で照らしていました。

《１９日》　朝早く福本さんが迎えに来てくれて、先ず両替、次にワイン専門店へ。市バスに乗ってニット専門店へ。昼ご飯はオペラ通りを東へ

ちょっと入った和食の「国虎屋」。高知安芸市の「うどん国虎屋」のパリ店です。（写真上）

よく冷やした前菜のまぐろの美味しいこと。小さくサイコロに切ってある所は、お刺身と違う、フランス人の好む食感を意識しているようでした。パリで頂くおうどんは絶品です。ご馳走になって嬉しかったです。

ホテルへ帰って一休みしました。

ゆっくりオペラ鑑賞の準備を始めました。

ところが私は、大変なことになりました。

伊野部さんと私のチケットが見つかりません。

何故か私が二人のを持っていて、大切だから大切だからとハンドバッグに入れて何時も持ち歩いていました。開演まで一時間ちょっとになっています。泣きそうになりながらもう一度スーツケースをひっくり返して探しました。中の仕切りのポケットに移していました。有って良かった。

Ａ４サイズのチケットが見えなかったなんて、頭の中真っ白でした。三人とも綺麗になりました。幾つになっても綺麗になることは幸せです。

オペラ座（写真右下）の前は、待ち合わせの人々で大混雑でした。

ストラビンスキーの近代的なオペラ 親に反対される若い二人が紆余曲折の末にめでたく結ばれるストーリー。艶やかな二人の歌声に聞き惚れている内、フランス語分からないから、トロトロ眠ってしまいました。目覚めた時の衝撃！舞台は二階建てになっていて、その上も下もセックスに溺れる男と女がいっぱいです。（写真はオペラ座の鍋島）

昨日はチャイコフスキーの「白鳥の湖」でしたが、早くから満席だったのです。

かにかくに　口に出せねど　おかしけれ　たゆたえど　沈まぬパリ

自由　平等　博愛のフランス　冥土の主人へお土産話にします。

《２０日》　印象派モネの「睡蓮」連作をオランジュリー美術館で鑑賞して、リポリ通りのアンジェリーナ チョコレート屋さんで、「お菓子の好きなパリ娘」を思い出してエクレアを買いました。

お昼は、生牡蠣を食べた「カプチーネ」で、今度こそ ワイン エスカルゴ オニオンポタージュ・スープをオーダーしました。

待つ事しばし バターとニンニクの香ばしい匂いがして来ました。

ジュージューあつあつのエスカルゴを十年振りに頂きました。

食べ放題の生ハム、生牡蠣、ジュージューあつあつエスカルゴ、これを食べられただけで、はるばるパリまで来た甲斐があったと言うものです。

主人も大好きでした。私が食べたらあの世の主人も　きっと　美味しいのです。

《２１日》　パリ最後の一日になりました。

オルセー美術館ではミレーの「落穂拾い」や「晩鐘」が「よく来てくれましたね」と言ってくれたように思いました。印象派は五階でした。

（写真上はオルセー美術館前の三人。後ろはルーブル美術館）
ミレーの絵の前で下の写真を写したので この後、警備員が飛んで来ました。

《２１日午後》　伊野部さんと宮地さんはルーブル美術館へ行きました。
私はもう一度パリへ行くチャンスがあったらナポレオンの柩を拝みたいと思っていました。
リポリ通りで二人に別れて、チェイルリー公園を横切り、モネの睡蓮を見たオランジュリーまではすぐに着きました。

５～６段階段を降りてコンコルド広場（写真）女神に囲まれた噴水や聖人の彫像が、平和や協調を祈って立っている中にロゼッタストーンの文字を　シャブリオンが読み解いたお礼に、エジプトよりムハメド・アリから贈られたオベリスクが高々と建っています。

その遥か彼方に、私のこれから行こうとしている、アンバリッド院の丸い擬宝珠が金色に輝いています。3キロ位を覚悟してセーヌ沿いの並木道を歩きました。シャンゼリーゼの騒音も聞こえない、ジョギングする人に会うぐらいで　シンと静かになりました。

前回の旅行の後で興味が沸いて、「王妃マルゴ」と「ナポレオン」を読みました。それまでナポレオンは一人しか居ないと思っていました。ナポレオンの略年譜では１７８４年１０月２２日に王立陸軍士官学校に入校しています。２２９年前の明日です。些細な偶然に嬉しくなりました。

次第に人通りが多くなってきました。アレキサンドル三世橋に着きました。パリ万博の時出来たそうで華美絢爛な彫刻で飾られた欄干、四隅の高い柱には片足で今にも飛び立ちそうな黄金のエ

ンジェル。使われた純金が何トンと言ったか聞き漏らしましたが、ライトアップされた夜は格別綺麗でした。エアーターミナルの両側には緑の芝生が広がって子供連れでにぎわっています。私もそこに寝転びたい位疲れました。

軍事博物館へようやく辿り着きました。案内板が読めないから、矢印に従って歩いたら二階の博物館へ行ってしまいました。そこに制服の軍人が出て来たのでほっとして、「ナポレオンの柩を拝ませてください」と日本語でお願いしました。

礼拝堂（写真上）は荘厳、でも何か愛らしいオシャレを感じ、室内の美しさに疲れを忘れます。ピンクとゴールド　白い大理石　お墓なのに日本では少女趣味と言われそうです。

金色の擬宝珠の真下にナポレオンの柩がありました。（写真下）

地下一階部分にマホガニー色のゴンドラの様でもあり、昔の乳母車の

ような形の柩で一階の別の部屋に、もう一つお棺があります。
濃いグリーンに白い模様の大理石のお棺には胴にｏｎｅの文字が。三世ではないでしょうか。三世の父はルイ・ボナパルトでナポレオンの二番目の弟。
母はジョセフィーヌの最初の夫の娘オルタンスです。だから（ルイ・ナポレオン）であるナポレオン三世はナポレオンの甥であって、ジョセフィーヌの孫です。
伯父と甥が一つ屋根の下で眠っている　清々しい気分になりました。
今から１５２年昔、１８６１年１２月１５日雪の降る極寒の一日、五十万人のフランス人パリ市民が、ルアーブルからセーヌ川を遡って来るナポレオンの柩の凱旋を、待ち続けたそうです。

《２２日》お世話になったスクリーブホテルを後にしました。**ニースへ！**
午後から、ニースマイバスのシルバウさんの車で、モナコへ行きました。伊野部さんと宮地さんの希望の国モナコです。（写真は王宮前の二人）
上品で美しいアメリカ女優のグレイス・ケリーとモナコ王レニエ三世の世紀の結婚、幸せの王妃

が車の事故で亡くなった時の哀しみもまた、世紀の悲しみでした。

カジノ・ド・モンテカルロとホテル・ド・パリ

流石にカジノ　とてもサービスが良く写真にニコニコ入ってくれます。私は、モンテカルロと文字を読んだだけで、「遠くへ来たわ」と、喜びではなく、哀愁に近い気持ちになりました。

カジノの向かいに１２年にモナコ皇太子が結婚式を挙げたホテル・ド・パリがあります。

来賓の車でホテル前の広場は埋め尽くされたそうです。

（写真上はホテル・ド・パリ前の三人）

（写真下はモナコ大聖堂）

山上にエズの村と言う隠れ村が、石作りで残っ

ています。フラゴナール香水工場に行きました。左に地中海を見ながら山腹の九十九坂を登りました。グレイス・ケリー妃と皇女の車の事故もこんな道だったかも知れません。夾竹桃が咲いているのを宮地さんが見つけました。

《２３日》　シルバウさんの車でニースの市内観光をします。小高い丘に登って、碧い地中海と赤い瓦屋根のニースの街並み、空も青く晴れています。温暖な気候で、１８世紀から貴族の避寒、避暑地として豪華な館が建ち、今に残ってホテルや美術館になっているようです。昔は塩田で栄えたそうです。

シルバウさんは、神戸大学に留学していたそうですが、日本で良い仕事がなかったのでしょうか。聞きはしませんでしたが……

ヨーロッパで一番大きなロシア正教の教会へ行きました。（写真上）　教会をバックに宮地さんと写真を撮っていると、ロシア人っぽい女の方が近づいて来てシャッターを切ってくれました。そして「アイラブユー」って言いました。突然の聞き慣れない言葉に「サンキュウ」も言えませんでし

た。この日私はラビットの手編みの帽子を被って、水牛の大きなクルスのペンダントをしていました。教会を訪れたのは偶然でした。

どんな時でも例え女性からでも「アイラブユー」は**うれしい！**

《２３日の午後》

三人で海岸の散歩に出かけました。

帰ってきてから分かりましたが、フランスは十月末日までサマータイムです。だからパリの朝七時は暗かったのです。ニースに来てからその意味が分かりました。

まだ泳いでいます。海を見たら入りたい私ですが、不思議にそんな気持ちは湧きませんでした。遠浅ではありません。後ろを向くと、陽光に映えるホテルが何処までも続いて見えます。

ネグレスコホテルのロビーで遊ぶ。

「シャレード」や「泥棒成金」などの舞台になったロビーには、１８世紀の貴族の肖像画、食堂には、シャガール　ピカソ　マチスの絵画、地下にはお客様の生年月のワインを用意しているとのこと。

オルセー美術館で叱られた私は、ヘッピリ腰でしたが、写真は撮り放題、長居して遊びました。（写真はネグレスコホテルで撮影）

上はルイ十五世騎馬像の前で

下はナポレオン三世肖像画前の鍋島

今回の旅行は、交流の広い伊野部さんのお蔭で実現しました。自分の足で、自分の言葉で目的を達する事の面白さを味わせて貰いました。

ところが私には、この後最後の試練が待っていました。

飛行機はドゴール空港で三時間待って十一時にＪＬに乗る事になっていました。が乗り継ぎと言う英語もフランス語も知らなかったので、また入国税関へ並んだのです。

宮地さんがすんなり出て、私は隣の窓口へ行ったら「ジャポンジャポン」と言いながら列の後ろを指さして通してくれません。震え上がってしまいました。

「もう一回廻ってこい」と言われたのかと後尾について来直したら、すんなり通りました。

矢印の通り歩いて行くと伊野部さんに会えてほっとしました。でも伊野部さん

も宮地さんもＪＬの出発口が分からなくて困っていました。
　それからどれ程歩いたことでしょう。尋ねようも誰もいない。
又税関に辿りつきパスポートを見せたら、二階の４と言いました。ところが階段が無い。三時間が瞬く間に過ぎていきます。

　さっきの税関の前にたむろしていた制服の青年にチケットを見せて
「イレブン！」と叫びました。

伊野部さんの「一生懸命言ったら一生懸命聞いてくれるよ」その通りでした。

（終わり）